



## —— 座 談 会 ——

# 高松地域協議会発足について

【出席】高松地域協議会検討会

(有)スクエア  
代表取締役

**朝倉 誠氏**

(高松第9支部)

(株)アイ・ティー・プロ四国  
代表取締役

**川原 哲也氏**

(高松第9支部)

【司会】ゲストインタビュアー

サイテックアイ(株)  
代表取締役社長

**大澤 佳加氏**

(高松第1支部)

### 高松地域協議会設立について

**司会** 本日はお忙しい中をお集まりいただき、ありがとうございます。早速ですが、まず最初に高松地域協議会について、どんな会なのかわかりやすく説明していただけますか。

**川原** どんな会なのかの説明の前に、まずはなぜ設立することになったのかをお話ししたいと思います。

同友会の場合、中西讃、三木、東讃、高松に支部があり、高松以外の支部は同じ地域の企業が集まって支部ができていますが、高松の場合は第1から第9支部まで、それぞれの支部に所属する会員企業の住所がバラバラで、例えば第1支部はこの地域に集まっているとかではなく、同じ地域でも第1支部だったり、第8支部だったりいろいろなんです。そのために、いざその地区で何かをしようというときに複数の支部に跨ることになり、それがネックになってしまいう懸念がありました。

そこで、高松支部の会員企業をの所在地別にいくつかの地域、グループに分け、それぞれ

の会員がそれぞれの地域に対して同友会運動を通じて貢献できるようにしたいとの想いで、より地域を小さく区割りして実践し易くなる仕組みとして高松地域協議会を設置することになりました。

### 発足の経緯と役割

**司会** そうなんです。ところで、発足までの経緯についてですが、川原さん聞かせていただけますか。

**川原** 近年の共育型インターンシップを始めとする地域からの香川同友会に対する期待の高まりにどのように応えていこうかと数人で話していた中で、高松地域協議会（以下、地域協議会）ができるという話になったんです。そのうちに、同じ考えの者が少しずつ増えていき、総勢7名で話し合いを重ね、方向性や地域の分け方等々について協議しました。

その結果、一つの支部を中学校の校区でグループ分けをして、それぞれの核になる会員さんを選んだらどうかということになりました。

**司会** いつ頃のことですか。

**朝倉** 昨年の5月です。

**司会** そうですか。ところで地域協議会の三つの役割についてお聞きます。一つ目の地域で若者を育てる。地域に若者を残す運動については、具体的なイメージや活動について決まっていることはありますか。

**朝倉** 具体的にこういうことが決まっているという報告はできませんが、例えば自分たちの住んでいる町を見回すと、そこに住んでいる子どもたちのことを殆ど知らないんですね。近所の子どもたちのことをあまり知らないとか、関わりがないという人が多いようです。そこで逆に我々地域の中小企業が子どもたちを見守ることで防犯面でお役にたてますし、また中学校だと会社見学があると思うのですが、そういうことに使っていたらと思います。

**司会** 地域の子どもたちと繋がることで防犯面でも貢献できるのではという考えですね。

**朝倉** そうです。

**司会** ところで二つ目のプラットフォームになるというのは、結

構大変なことだと思うのですが。

**川原** そうですよ。この案は

そもそも以前にあったものなんです。他県の同友会を見てみると、必ず地区があつて支部がある形をとっています。自分たちが生業をしている場所をベースに同友会運動を進めていくというものですが、高松の場合、その形を取らずに今日に至つたわけなんです。それが香川同友会の発展の原動力のひとつになっていた面はありますが、その状況が見直されないままに長く続いてきたという歴史があります。

なぜそういう状況が長く続いたのかというと、これまで形を変え大義名分がなかったのかもしれないですね。そこへ今回は地域課題という大義名分がこちらにぐっと押し寄せてきて、その波に我々が押されるように動き出したのが実際のところなんです。

例えば、共育型インターンシップが三木高校で始まり、それが好評で県下の幾つかの高校からアプ

ローチがきています。ただ、それはそれで嬉しいことですが、残念なことに受

け入れ先の会員企業が足りなくなっています。我々は、「小さな

一流企業となつて地域の希望と

なるう」というビジョンを掲げていますが、こういう状況では

希望にならないわけです。せ

つかく、高校側から「お願いしま

す」と来てくれても、こちらが受

け入れられないのは恥ずかしい

ことだと思いました。せっかく

希望してくれた学校や子どもた

ちをきちんと受け入れられるよ

うにしよう。そのためには、今

のようなバラバラ状態ではな

く、近くにいる会員企業同士が

普段から連携しながらきちんと

した経営に取り組み、学生さん

を受け入れられる会社になるこ

とを互いが共通目標にできるよ

うな関係性をつくるのが非常

に大事ではないかということが

わかってきました。

近年の香川同友会の

大きな流れであり外部から注目

されている取り組みの共育型イ

ンターンシップ、コイコムA

P、就労体験の場の提供、これ

らをしている3つの委員会から

協力の依頼が支部にあつても、

いざどこが担当するのかという

段になると迷うわけです。迷う

というよりも困つたわけです。

それに応えるために支部の垣

根を超えた地域協議会が提案さ

れました。そ

して有吉副



朝倉誠氏



代表私と木村副代表を中心に検討を進める中で、きちんとした経営理念があり、その上に経営の中に地域のために何かをやっている会員さんを探したので

が、同友会理念で「よい経営環境をつくろう」「国民や地域と共に歩む中小企業」と唱っているに

も関わらず意外と少なく、一歩踏み出したにも関わらず足踏み

状態なわけです。ただ、この部分はきちんと押さえておかなければ

はできないので、まず活動ができる環境づくりをということになりました。

**川原** そうです。やはり同友会運動を真ん中においた地域協議

会であるためにブロック制にして、中学校単位にしたのも、最終

的には中学校のインターンシップのようなものを行い、中学生

のお祭りなどのイベントに参加する人も少なくなっていますよ

ね。そういう意味でも活動の意味はあると思います。が、どのような取り組みをお考えですか。

**朝倉** 地域には既にコミュニティが形成されて

いるので、それと同じことを

する必要はないと考えていま

す。我々は中小企業家同友会としてコミュニティ活動の足りない

部分を補えるところ、あるいは困ったときに手助けができる

場所をというところに設立の意味があると考えています。

**川原** そうです。やはり同友会運動を真ん中においた地域協議

会であるためにブロック制にして、中学校単位にしたのも、最終

的には中学校のインターンシップのようなものを行い、中学生

のお祭りなどのイベントに参加する人も少なくなっていますよ

ね。そういう意味でも活動の意味はあると思います。が、どのような取り組みをお考えですか。

**朝倉** 地域には既にコミュニティが形成されているので、それと同じことを

する必要はないと考えています。我々は中小企業家同友会としてコミュニティ活動の足りない

部分を補えるところ、あるいは困ったときに手助けができる場所をというところに設立の意味があると

思います。他県の人たが地域にどんどん入っていくことによって10〜15年後には地域を支える側、コミュニティ側の中心になっていくのではないかと考えます。

**司会** たしかにそうですね。今はPTA活動に積極的でない保護者が増えていると聞いています。

**朝倉** その通りです。たぶん県外のある小学校で起きた夏休み中のプール事故、児童が溺れて亡くなるという悲惨な事故が原因で、当日当番だったPTAの方たちがとても辛い思いをした



川原哲也氏



わけです。そのあたりからだと思うのですが、自分たちも同じ目に遭えば大変だと活動に消極的になる保護者が増えたようです。気持ちはわかりますよね。

**川原** 同友会には「地域の希望となる」という理念があります。我々は「地域の希望となる」ための一つの選択肢としてこの地域協議会が存在すると受け止めています。ですから「地域の希望となる」ビジョンがまず最初にあります。

**朝倉** 例えば、地域で何か困ることが起きた場合、あの会社とか、あの会社のあの人というふうに我々のことが頭を過つてくれるように活動を根付かさなければと思っています。

**川原** そして、あの会社なら将

来、息子や娘たちを安心して預けられるとか、あそこで働かせたいということに繋がっていくという思いもあります。

地域の人たちに寄り添った活動を通して、何か困ったときに思い出してもらえら地域協議会を目指したいと思っています。皆さんもご存じだと思うのですが、不登校の子どもがずいぶん増えていますが、そんな子どもたちのための活動をしている人が会員さんの中にいます。なので、あの地

域ではこんな活動をしている等々の情報をいろんな地区で交換し、それぞれの地域の課題を共有することにより問題解決を容易にというふうになればと思います。

今までは、例えば地域の自治会等の防犯や防災対策の事業からその地域にある企業が参加したり、参加を要請されることは殆どありませんでした。要するにあまりあてにされていなかったという実情があります。

このところ、行政の施策の中に地域の中小企業がほぼ入っていないことがはつきりしてきました。それをきちんとまとめている同友会の存在と「地域の希望となる」という理念をもって活動をしていることをわかっていただけると、逆に我々が活躍できる場がしつかり見えてくるような気がします。とくに、多様な委員会が障害者施設の入所者さんの就労の受け入れをしてくれる会員企業を探していますが、近くに幾つかの企業があるにも関わらず、施設の入所者さん

ちにその情報は届いておらずただただ困っているという保護者の方たちの話を聞きました。そのときに、多様性委員会の人たちと一緒にいろんな取り組みができるのではないかと思います。このような課題は少しでも早く取り組みたいものです。

**朝倉** 私の住む校区の活動の一つに、定期的に校区内を車で回ってパトロールをするものがあります。参加してくれるPTAの保護者が殆どいなくてと



大澤佳加氏



でも困っています。その窮状を知った中小企業家同友会の会員企業が「うちでやりましょう」と申し出てくれ、それに協力する企業も現れ、今も続いています。青色防犯パトロールという名称ですが、その取り組みがコミュニティ紙で紹介され、それを読んだ会員企業さんから「お宅の会社、あんなことしてるんやな」と声をかけられました。こんなふうに地域のコミュニティセンターの活動を中小企業家同友会として同友会運動を広げていく一つのきっかけになるのではと思います。

こういうことが根付いていけば、おそらく他の地域からいろんな相談が寄せられるようになるし、なればいいと思います。また、会社としては社員教育の一貫になると思います。

**司会** PTAと関わりのある子どものことだけでなく、地域協議会の形で地域そのものの困りごとに対処していくようになると思うのですが、他県での同友会の活動がモデルになっているわけですか。

**川原** 大阪など他県の同友会の

取り組みをモデルにしています。他県の同友会活動の情報を参考にしたのが、中学校校区のブロック化です。また、会議等で集まる場所も地域のコミュニティセンターでというふうに、できるだけ近いところで集まるようにしています。

ただ、今は走りながらの段階ですが、ただし我々はあくまでも中小企業家同友会なので、同友会としてきっちりやっていくこと。同友会運動を隅々にまで広げていくために、これまでの壁を取り払った協議会を目指しているので、あくまでも中小企業家同友会としてどうあるべきか。そういうことができるかが核にあります。これを外すとおそらく収拾がつかなくなってしまう。

### 今後の取り組みについて

**司会** 最後になりますが、地域協議会の現状ですが、今はどんなことをされていますか。

**朝倉** ブロック制にしましたが、参加人数が少ないところは、二つを一つにして、とりあえず10ブロック以上にはしたいと考



えています。おそらく名簿上の住所の地域でのブロック分けになると思いますが、地域によって課題や問題が異なるので、実際に取り組みを始めるのと細々とした問題が出てくるのは必須です。それを踏まえてとりあえずスタートをとるということになったわけです。

**川原** 4月にスタートしたばかりなので、まずはブロックごとにブロック長とか主体者を数人つくりたいと考えています。ただ、ブロック長という名称があくまでも仮称なので、これから検討をしていく予定です。この件については近々皆で相談してそれぞれのブロックの代表を決め、その後それぞれのブロックの中での動きを報告し合い、

足並みを揃える事柄と個別の事柄を確認し、それらに対して全体の意見を聞く予定です。

支部活動の上にブロックの活動が入って重荷になってはいけないので、柔軟性のあるうちに地面を馴らしながら、皆でアイデアを出し合ってつくり上げていきたいと思っています。

**司会** わかりやすい説明、ありがとうございます。会員それぞれが会社を置いたり生活したりしている地域の課題解決を同友会活動の広がり重ねて取り組んで実践していく枠組みとなる地域協議会の設立から、これからの方向性について語っていただきました。長時間本当にありがとうございました。